

主体的にコミュニケーションする力をはぐくむために、目指す児童の姿を3つの観点「主体的にかかわる力や態度」「聞く力や態度」「話す力や態度」で設定し、「かかわり」に重点を置きながら、指導過程や指導形態・活動形態を工夫した英語活動の事例 ～学級担任だからこそできる英語活動～

学校名：安八郡神戸町立南平野小学校

実施状況： 3～6年：「総合的な学習の時間」で年間35時間

1・2年：ゆとりの時間で年間35回（1単位時間は25分）

毎週1回15分間の全校英語活動

指導体制：学級担任、ALT、地域ボランティア講師の3人によるTTで指導

その他：岐阜県教育委員会指定

児童生徒の未来を育む研究開発事業（平成17・18年度）

小中一貫の英語教育を通して

### （1）学校の教育目標

ハリウオのようにいきいきなかよくがんばる子

よく考えすすんでやる子

思いやりの心をもちなかよくがんばる子

ねばり強くがんばる子

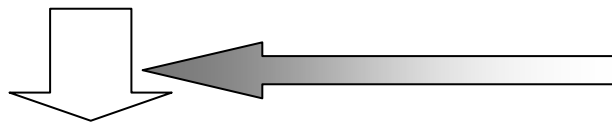
### （2）英語活動を通して目指す姿

児童の姿のとらえ

- ・単学級のため6年間限られた仲間の中で過ごし、学年が進むにつれ、仲間の中で自己主張することなく生活できる。
- ・英語での語りかけにじっと耳を傾けたり、生き生きと友だちとかかわったりして、コミュニケーションを図る児童が増えつつある。
- ・英語の単位時間の指導過程を明確にし、繰り返し行ったことにより、活動の流れや学び方が分かり、主体的に学習に取り組む児童が育ちつつある。
- ・方法や内容を明らかにすれば、ねばり強く取り組むことができる。
- ・仲間と主体的にかかわり、お互いに理解を深めていこうとする態度には弱さがみられる。

英語活動に期待する役割

- ・人とかかわりをつくり出す力を身に付け、思いやりの心を育てる。
- ・英語という日常生活で使わない言語を使って、相手にわかってほしい、相手の伝えたいことを分かりたいという願いをもち、伝え合うことの楽しさを味わわせる。
- ・外国語や外国の人々と直接ふれ合うことで、外国や自国の文化をより深く理解する。



英語活動を通して実現を願う児童の姿

主体的に人とかかわり、自他のよさや違いに気付き、互いを認め合いながら学びを深めていこうとする姿。

( 3 ) 評価の観点と評価規準 ( 中学年 第 3 学期 )

	主体的にかかわる力や態度	聞く力や態度	話す力や態度
ふれる・親しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰とでも楽しくコミュニケーションする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">Friendly</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話をしている人を見て最後まで聞く。</li> <li>言葉や表情で反応する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">Listen carefully Response</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に分かるようにはっきり話す。</li> </ul> <p style="text-align: center;">Clear voice Eye contact</p>

( 4 ) 指導方針 ( 本年度の重点実践内容 )

児童の実態に即した指導方法の工夫や改善

学級づくりを基盤とした学級担任だからこそできる英語活動の在り方

学年の発達段階や学級の児童の実態を十分に踏まえて見届けの視点を明らかにし、かかわりを引き出す指導方法やかかわりを深める活動形態の在り方を工夫・改善すれば、目的意識をもって人とかかわり、自分や友達によさや違いに気付き、人とかかわる心地よさや喜びを味わうことができると考えた。

児童理解と見届けの視点の明確化

ア 目指す姿の明確化

アンケートや観察等による客観的な児童理解に基づき、学年ごとの目指す姿の明確化を図る。

イ 自分や仲間の成長が自覚できる評価

・中間交流会 ( Step-up time )

前半の活動の様子から後半に伸ばしたい姿を焦点化して具体的に示し、児童を価値付ける。

・単位時間終末の振り返り ( Comments time )

活動の中で見つけた友だちの頑張りについて広め、ほめ合ったり、活動の成果について交流したり、かかわり合った心地よさを振り返る相互評価をする。教師は 3 T がそれぞれ役割分担をして評価する。

児童のかかわりが深まる指導方法の工夫・改善

ア 「たっぷりインプットでゆっくりアウトプット」による導入 ( ALT's time )

聞く時間を十分に取り、ネイティブスピーカーの英語にふれて、ALT とのやりとりを楽しむ中で本時の学習につなげていく工夫をする。

イ 誰とでもかかわることができる活動形態

はじめは教師と、次にペアやグループの中で、そして全体でというように、段階的、意図的に、場や目的に応じて活動形態を設定する。

ウ かかわりを深める言葉の指導

『かかわりを深める言葉』を児童同士で使っていくことで、会話が続き、相手のことをより詳しく理解することにつなげる。

## (5) 具体的実践

## 指導計画

第4学年	題材「電話番号を教えて！」	指導時期 10月
指導目標	・電話番号を集める活動を通して、数字(0~9)や電話番号を聞いたり、伝えたりする表現、かかわりを深める言葉(O.K?/Pardon?)に親しみ、誰とでも仲良く話すことができる。 全5時間	
言語材料	numbers(0~9) What's your telephone number? It's 27-○○○○. O.K? / Pardon?	
教材・教具	数字カード 紙コップ ゼッケン 電話番号表 電話番号ワークシート	

時間	ねらい	主な活動内容・設定する場面等	主に扱う言語材料
1	数字ゲームを通して、数字に親しみ、楽しくゲームをすることができる。	集合ゲーム:ALTによって発音された0~9までの数字の人数で集まって座る。 ベットゲーム:9つの紙コップに0~9まで書き、班内で一人が紙コップのどれかにサイコロを入れる。他の3人には分からないようにシャッフルし、3人は数字を言い、答える。	numbers(0~9)
2	教師に電話番号を伝える活動を通して、数字と自分で作った電話番号に親しみ、相手に分かるようにはっきり話すことができる。	数字完成ゲーム:ALTによって発音された0~9までの数字を班で協力して並べる。 赤白リレー:赤と白に分かれて、What's your telephone number? It's 27-○○○○.のやりとりを3回行って、パトタッチする。 担任・ALT・地域ボランティア講師に自分の電話番号を伝える。	numbers(0~9) What's your telephone number? It's 27-○○○○. O.K? / Pardon?
3	班の仲間の電話番号を集める活動を通して、電話番号を聞いたり、伝えたりする表現やかかわりを深める言葉に親しみ、相手に分かるようにはっきり話すことができる。	ALTによる絵本の読み聞かせを楽しむ。 ペアで電話番号を聞き合う。 電話番号ワークシートに電話番号を書き入れる。 班の仲間と電話番号を聞き合う。ワークシートに電話番号を書き入れる。	numbers(0~9) What's your telephone number? It's 27-○○○○. O.K? / Pardon?
4・5 本時	電話番号帳を作る活動を通して、電話番号を聞いたり、伝えたりする表現やかかわりを深める言葉に親しみ、誰とでも仲良く話すことができる。	ALTによる紙芝居を楽しむ。 意図的に分けられた二つのグループ(18人)の中で電話番号を聞き合い、ワークシートに電話番号を書き入れる。 第5時では残り18人分の電話番号を「スクランブル交流」で聞き合い、ワークシートを完成させる。	numbers(0~9) What's your telephone number? It's 27-○○○○. O.K? / Pardon?

授業の特徴(本時あるいは本題材における活動を設定する上で工夫した点)

ア 児童の実態や興味・関心を踏まえた題材の設定

本題材は、数字(0~9)や電話番号を聞いたり、伝えたりする表現に親しみ、電話帳を完成させる活動である。児童は、6月に国語の単元「伝言はまちがえずに」で、電話対応のよい例を学ぶとともに、日常生活で使用するなど、電話は身近なものである。そこで、人間関係が固定化しがちであるという実態に対して、互いを認め合い、クラスの誰とでも笑顔で話すことができ、仲良く生活できる児童の姿を願い、「電話番号教えて!」という活動を設定した。

イ 全員とかかわり合うことができる単元指導計画の工夫

第1時から第3時には数字(0~9)や電話番号の言い方、そして本題材のスキットを繰り返し聞いたり、発音したりする時間を十分に取った上で、第4時と第5時には、クラスを半分に分けたグループの中で、それぞれ18人分ずつの電話番号を集めた。クラスの仲間全員とコミュニケーションをとるために2時間使い、時間をたっぷりとした。また、前時と相手を変えて同じ活動をしたりすることによって自信をもち、かかわりをより深めることができるようにした。

ウ 誰とでも仲良くなれる活動形態の工夫

本時は、誰とでも仲良く、主体的にコミュニケーションできる児童になって欲しいという願いから、友だちとのやりとりを1対1で楽しむ対話形式の活動を取り入れ、電話帳を完成させたいという願いから多くの友だちと必然的なかかわりが生まれるよう工夫した。

エ 意図と目的のある活動の工夫

児童は前時に、クラスの半分18人の電話番号を既に集めている。電話帳を作り上げるためには、残り18人分が必要であり、全員とやりとりをしなければならない。自分から話しかけるという主体的な姿を促すが、相手に話しかけられることで消極的な児童にとってもやりとりの必然性が生まれる。

オ かかわりを深める言葉の指導

かかわりを深める言葉 Hello./Thank you./See you.などを大切にした。特に、「心をつなぐ言葉」として、場に王子で Thank you. Please. Excuse me. I'm sorry.を大切にした。また、必要に応じて聞き返す言葉・確認する言葉 Pardon?/O.K? も教えた。

カ 視点を明確にした評価の工夫

見届けの視点として『目指す姿』のより具体的な姿を洗い出し、3人の教師が共通理解の下に指導し、見届ける。そして、特に担任は日常生活も含めた担任しか見つけることができないよい姿を価値付ける。

本時の見届けの視点

- ・電話番号が正確に伝わっているか、相手のことを思いやり確認しながらやりとりをしているか。(Clear voice/Friendly)
- ・仲の良い友だちに限らず、積極的にクラスの仲間全員とかかわろうと意識しているか。(Friendly)
- ・たずねる相手を人で選ばず、誰であっても笑顔でやりとりしているか。(Friendly)
- ・相手の言ったことが聞き取れなかった時にもう一度聞いているか。
- ・相手の言った電話番号をもう一度確かめて聞いているか。

授業の流れ ( 5 / 5 )

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師 学級担任 ( H ) 外国語指導助手 ( A ) 地域ボランティア講師 ( V )	
つかむ	<p>1. Greetings &amp; warm-up ♪ Hello song ♪ The more we get together ( 2 グループ → 4 グループ → 7 グループ )</p> <p>2. ALT's Time ・ "8 Blue Fish" の紙芝居を聞く。 ・ 電話についての話を聞き、クイズに答える。</p>	<p>H: 係の児童を援助する。 A: 歌をリードする。 V: CD プレーヤーの操作をする。(音楽)</p> <p>A: "8 Blue Fish" の紙芝居をする。電話について話をして、クイズを出す。 V: 児童の疑問やつまづきをとらえ、ALT につなぐ。 H: 児童の立場に立って一緒に共感したり、疑問を口に出したりする。</p>	<p>1. 歌う人数が徐々に増えることで、より多くの仲間と歌うと楽しいということを実感させることを通して、学習する意欲を高める。 身振りを加えている児童や楽しい表情で歌っている児童を価値付ける。</p> <p>2. 意図的に本時の表現を繰り返し使うことで、児童が活動に抵抗なく取り組むことができるようにするとともに、児童に問いかけたり、児童のつぶやきを取り上げたりしながら本時の表現を意識させる。</p> <p>3. チャンツでは自分を表現することが苦手な児童をリズムに乗せることで活動に引き込む。 模範のスキットでは、めあてにつなげるため Pardon? や O.K? を、意識的に笑顔で大きな声で発話する。</p> <p>4. 見届けの視点についてのよい姿をその場で価値付け、広める。 配慮が必要な児童に対して、HRT も一緒にジェスチャーを用いてや</p>
かかわる	<p>3. Today's skit</p> <p>A: What's your telephone number? B: It's 27- . O.K.? A: O.K. / Pardon? Thank you.</p> <p>・ Review 2 チームに分かれ、チャンツのリズムに合わせてスキットの練習をする。</p> <p>・ Demonstrations 模範のスキットを</p>	<p>H: 課題を提示する。</p> <p>A&amp;V: 電話番号を尋ねる方と答える方に分かれて児童をリードし、2 回目は入れ替わる。 H: 声の小さい方に入って活動する。 A、V&amp;H: ボランティア児童 3 名</p>	

課題 相手の電話番号をたずねて、4年1組の電話番号帳を完成させよう。

<p>ふりかえる</p>	<p>見て活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Today's aim 本時のめあてを確認する。</li> </ul> <p>4. Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスの仲間 18 人分の電話番号を聞き集め、電話帳を完成させる。</li> <li>・ Step-up time をはさんで前半・後半で活動する。</li> <li>・ 時間内に集めることができなかった友だちの電話番号は班で補う。</li> <li>・ 完成した児童は教師の電話番号を聞きに行く。</li> <li>・ 時間があれば完成した電話帳を用いたゲームを楽しむ。</li> </ul> <p>5. Comments time</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で自分や友だちの頑張ったことを交流する。</li> <li>・ 友だちのよかった姿や自分が頑張ったことを発表する。</li> <li>・ 教師による評価を聞いて次時への意欲をもつ。</li> </ul> <p>6. Greetings</p> <p>♪ Good bye to you</p>	<p>とともに模範のスキットを見せる。</p> <p>H: めあてを意識させ、黒板に提示する。</p> <p>A: Clear voice V: Friendly</p> <p>H: Friendly の視点で児童を観察し、めあてに照らしてよい姿を価値付ける。</p> <p>A: Clear voice V: Friendly(smile)</p> <p>H: 担任しか気付けないことの視点で価値付け賞賛する。</p>	<p>りとりを楽しめるようにして参加を促す。</p> <p>Step-up time では、本時の活動で使う表現の中から、児童が不安に思っている表現があれば再度練習する。よい姿（多くの友だちに電話番号を自分から聞いている姿、笑顔で話す姿など）を紹介し、後半の活動の方向性を全体で確認できるようにする。</p> <p>本時重点とする評価の観点と評価規準</p> <p>Friendly</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰とでも笑顔でやり取りすることができる。</li> <li>・ 相手を思いやり Pardon? / O.K? を使い、聞き返したり確認したりすることができる。</li> </ul> <p>Clear voice</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手に伝わる声の大ききさで話すことができる。</li> </ul> <p>5. 単元を通した伸び・自分から進んで話しかけることが苦手な児童の頑張り・完成した児童への賞賛など Step up time 後の伸びをできる限り見付け、価値付けることでクラス全体に広める。</p> <p>日常生活においても、お互いに認め合い、誰とでも仲良くすることができるよう促す。</p>
--------------	---	--	---

## ( 6 ) 実践の検証

### 児童の観察からの具体的な考察

- ・ 授業のパターンを確立したことによって、児童に毎時間の学習パターンが定着し、場に応じた動きができてきた。また、模範のスキットのボランティアに積極的に参加しようとする姿がみられた。
- ・ ALT's time を工夫し、たっぷりインプットを続けてきたことにより、英語を聞いて反応することができている。
- ・ 1対1の対話形式をスクランブルで行ったことで、コミュニケーションの場がどの児童にも保障された。そのことで自分から話しかけられない児童も多くの児童とかかわることができた。
- ・ 電話番号帳を完成するという目的をもった活動を仕組んだことで、クラス全員とかかわる必然性が生まれ、児童がより多くの児童とかかわろうとする主体的な姿が見られた。
- ・ めあての具体的な姿を示すことで、消極的な児童が自分から聞いている姿、笑顔で話す姿など普段見られない良さが活動に表れた。そして、それを価値付けることによって次への自信と意欲につながった。
- ・ 相手の言葉が聞き取れないときの対応について段階的な方法(約束)を提示したことで、誰もが安心して活動することができた。
- ・ 「誰とでも笑顔で話そうとすることがすばらしい」という教師の価値付けは、日常生活にも生かされる活動であった。そのため、児童は相手の反応を辛抱強く待ったり、間を取って話したりして、相手に応じたかかわり方をするようになった。

### 今後の実践の方向

- ・ 英語の時間だけでなく普段の生活からも児童の実態を把握し、授業に生かし、担任ならではの授業づくりをする。教師も積極的に英語を使い、学習者のモデルとなる。
- ・ 低・中・高で同じ題材を進めていくが、発達段階に応じた活動内容や活動形態の工夫をするとともに、新しい題材も開発する。
- ・ 学年が変わっても同じ観点で育ちを見届けるための評価の窓や、個々の伸びをどのように評価していくかを検討する。

## ( 7 ) 中学校における英語教育との連携

### 中学校における導入期の指導として期待したいこと

同じ中学校区の小・中学校の英語担当者が情報を交流し、共通の指導過程を取り入れ、導入の工夫、中間交流会、ふりかえりなどを大切にする。中間交流会やふりかえりでは本時のねらいに照らして、よい姿の生徒を取り上げたり、仲間の前でスキットを行わせたりして、お互いに仲間のよさを認め合う場を設定していく。

小学校の英語活動が「聞く」「話す」を中心に行っていることを考えて、中学校でも同様に、ペアによる会話活動を帯活動として授業の最初に位置付けるなど、導入期における「聞く」「話す」活動の充実を図る。

小・中学校で、同じクラスルームイングリッシュを使ったり、小学校英

語活動で行ったゲームを取り入れたりする。難しくなると思っていた中学校の英語に小学校の指導を生かすことで、中学1年生の生徒たちの英語学習への抵抗感を取り除き、英語をもっと勉強したいという意欲につなげる。

( 8 ) 資料

・活動のやり方、手順

スクランブルで交流し、電話帳を完成させる。

< 約束 > 電話番号を聞き取れなくて聞き返された時、一回目は、言葉だけ、二回目は、言葉とジェスチャーで答える。三回目にワークシートの裏に書かれた自分の電話番号を見せたり、相手のワークシートに書いてあげたりしてもよい。

・活動で使う教材・教具

紙芝居 “8 Blue Fish” (アルティアセントラル)

いろいろな電話の写真や絵

電話番号ワークシート

## My telephone number

2 7 -

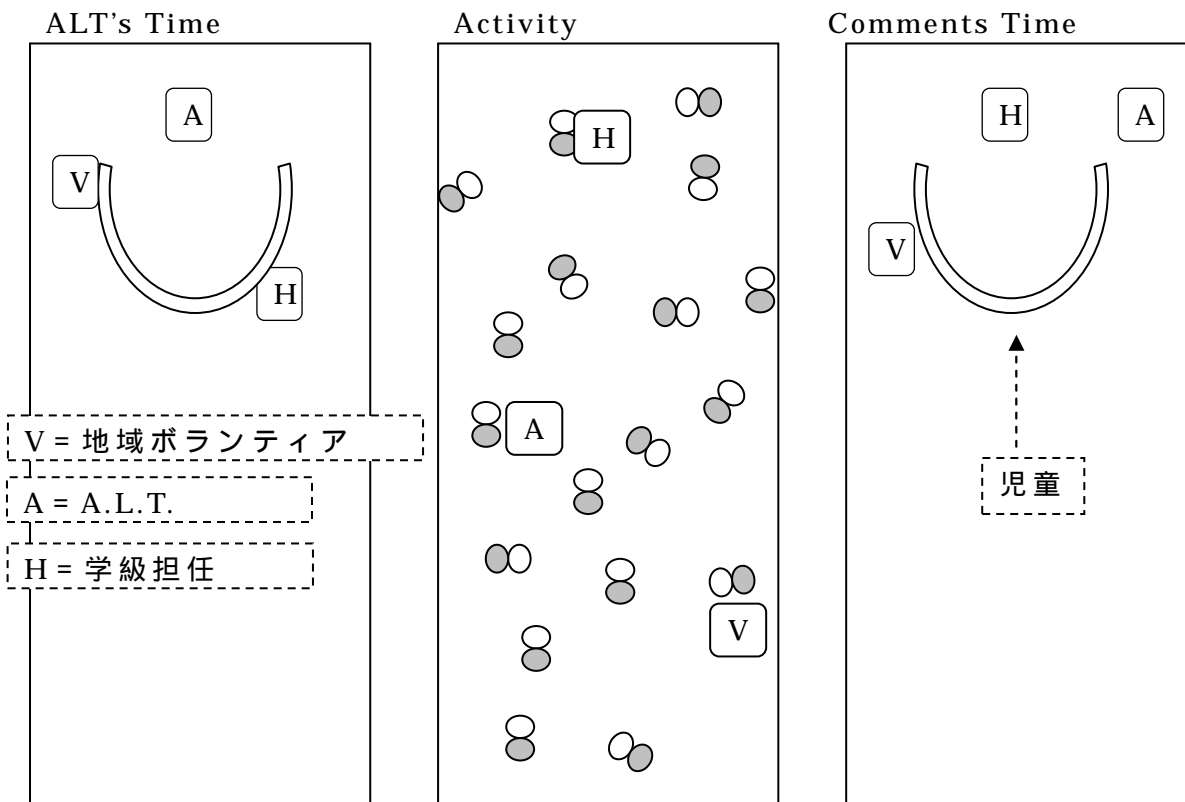
--	--	--	--

なまえ \_\_\_\_\_

4年1組 telephone book																	
A男	27-					N男	27-					G子	27-				
B男	27-					O男	27-					H子	27-				
C男	27-					F男	27-					I子	27-				
D男	27-					Q男	27-					J子	27-				
E男	27-					R男	27-					K子	27-				
F男	27-					S男	27-					L子	27-				
G男	27-					T男	27-					M子	27-				
H男	27-					A子	27-					N子	27-				
I男	27-					B子	27-					O子	27-				
J男	27-					C子	27-					P子	27-				
K男	27-					D子	27-						-				
L男	27-					E子	27-						-				
M男	27-					F子	27-						-				



・ 設定の仕方（机の配置や場の設定等、見取り図）



・ 実際の活動の場面や様子が分かる写真

ALT's Time

